

一学校教育目標一

よく学び 心豊かで

たくましい上間っ子

(1) よく考え進んで学ぶ子

(2) 明るく思いやりのある子

(3) ねばり強くたくましい子

学校便り

第6号

上間っ子

R5年5月11日(木)

那覇市立

上間小学校

発行責任者

校長 宮里 寧

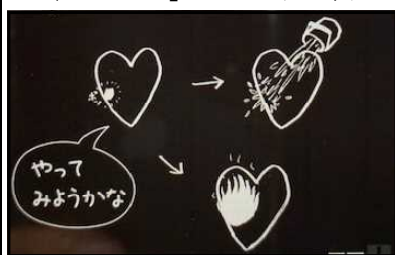
TEL 917-3327

お話朝会-勇気・挑戦する力!!

ある作家が、子供たちに最も教えなくなったのが「勇気の大切さ」だと述べていました。いじめや嫌がらせ、あるいは万引きなども、単独で行うことはまれで、多くの場合、複数で実行しています。その該当児童たちを呼んで指導をすると、つられてやってしまった子供たちは、「悪いとわかっていたけれど、やめる勇気や止める勇気がなかった」とこたえます。そこに最も欠けているのは、「勇気」です。いじめや万引きのグループから抜ければ、それなりの「制裁」は受けるでしょう。無難にはいかないかもしれません。意に反したことをこれ以上続けてはいけない、だからやめる、という意志を貫くことが重要です。しかし、そうはせずに目先にある仲間たちからの「咎め」を避けるためにそのままの関係、そのままの行為を続けてしまいます。こうした例はたくさんあります。決定的に欠けているのは「勇気」です。

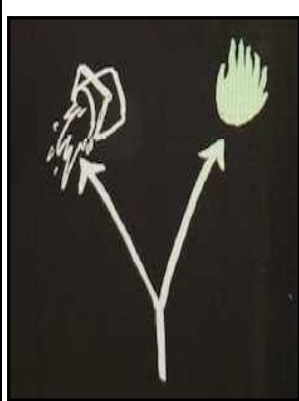
また、進んで集団の代表になり、進んで大きな責任を負おうという気持ちを持った子が減ってきたのも最近の特徴です。「学級委員」の選挙でも、立候補ゼロ、あるいは一、二人というクラスもよく見られます。進んで大きな責任を負うことが成長には必要なことであるのに、立候補して落選する恥ずかしさが先に立ってしまう子や、仮に当選しても責任者として叱られることが嫌だという理由で立候補しないのです。リスクを取る勇気がないのです。

中には内心「やってみようかな」という気持ちがあるのに、保身の方を選び、自分の心の火を消してしまいます。迷ったときには、「勇気」が何よりも必要なんだという価値観が内面化していないのです。こうした子供たちに、ただ「勇気を出せ」「失敗してもいいじゃないか」といくら言っても変わりません。



そこで、子供たちの心の中に起こるであろう思考過程を先回りして提示して、どちらの道を選ぶのが「よいこと」で、それはなぜなのなのか、2つの話をしました。

一つめは、「心についた火を大切にしよう」。自分の心の中にせっかくついた小さな火に、すぐバケツを持ってきた水をぶっかけないで、小さな火に勇気という燃料を注いで、大きな火にしていきましょう！



二つめは、「Yの字の法則」。これから先、上間っ子の前には、いつもこうした「Yの字」がでてきます。このとき、いつも心に火のついた方を選んでいくか、いつも「バケツに水」を選んでいくか、によってみんなの人生は大きく変わってきます。もちろん、いつも火のついた方が「うまくいく」とは限りません。失敗もあるでしょう。でも、そちらを選んでいく方が成長にはつながるし、何よりも後悔のない生き方になります。自分の心の火を大切にする生き方をしていしましょう。